（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	アフタースクールわんぱく

公表日　令和　7年　2月　1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	87.5	12.5	十分なスペースがある。まとまって活動したい時や孤立を防ぐためにあえてスペースを制限することがある。	広いスペースを今以上に有効に使う方法。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	100		必要な支援の度合いによって日々の職員配置を工夫している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	87.5	12.5	玄関の段差には可動式のスロープを用意し、車椅子のまま室内に入れるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	87.5	12.5	活動の前後に整理整頓、清掃、消毒等行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	87.5	12.5	静養するための部屋と一人になれるスペースとしてのテントは常時使用できるようになっている。	区切られたスペースが少ないため、利用者に協力してもらい部屋を空けクールダウンに利用することもある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	87.5	12.5	活動終了後は個人記録に記入し、翌朝正職員で反省を行う。その結果を基に日々の打ち合わせを行う。	活動前に記録を読んでもらう。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	87.5	12.5	ご意見は職員会議で発表し、職員に周知している。	頂いた意見について検討し、改善できる点は早期に改善するよう努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		職員会議、打ち合わせ、ケース会議の他、いつでも意見は受け入れている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	83	17	今年度「良好」という評価を頂いた。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	87.5	12.5	虐待研修、感染症研修は全員、正規職員は外部研修も行っている。	希望の外部研修があっても職務優先で受けられない場合もある。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100		ホームページに公表。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100		保護者の方とのモニタリング、相談支援事業所との情報交換を経てケース会議等を行い計画を作成している。	タイミングが前後することはあるが必ず行うこととしている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	86	14	子どもの情報は全員で共有し、ケース会議等で検討し計画作成している。	口頭で難しい場合には記録で共有し検討している。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	100		非正規職員にも支援計画を含め、記録を読むための時間を勤務時間として一定程度確保している。	記録だけでは伝わりづらいところがある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	86	14	１年に１回、標準化されたツールを用い、アセスメントしている。	集計に手間がかかる。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		ガイドラインに沿って適切に設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100		全職員にプログラム内容の提案や、改善案を投げかけながら、正規職員が設定している。	常に提案を呼び掛けている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100		情報収集に努めている。	あえて同じプログラムを続ける場合もある。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100		状況に応じて計画作成し、同じ活動でも個々にねらいや目的を設定している。	個々のねらいや設定を意識して支援できているか。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	87.5	12.5	行っている。	予想される問題について、その対策を含め確認する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	87.5	12.5	翌日午前中に正規職員で振り返りを行い、活動前の打ち合わせでその内容を非正規職員とも共有する。	シフトによってはメモや記録で伝える場合もある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100		支援終了後に記録している。	口頭で引き継いだことを後で記録することもある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100		６ヶ月に１度は行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	71	29	意識して取り入れ支援を行っている。	「地域交流の活動」については望まない保護者もいるが、公共施設や公園などの利用を通して地域に積極的に出ていくようにしている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	87.5	12.5	日頃から自分で選ぶ、決める機会を大切にし、本人の選択を尊重するようにしている。	選択肢の数や提示方法を工夫して、自己決定が難しい方にも選択の機会が持てるようにする。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	87.5	12.5	電話や相談支援員の訪問等で情報、意見交換している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	75	12.5	協力医療機関を設けている。 学校での引継ぎ時に子供の様子を聞きその日の活動の参考にしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	87.5	12.5	主に保護者を通じて情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100		同法人内のわんぱくキッズを利用していた児童が多いので、情報共有はスムーズに行われている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	87.5	12.5	実際にはまだ行っていないが必要となれば情報を提供することはできる。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	40	60	行っていない。	中高生主体の事業所のため
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	43	57	積極的な交流は行っていない。	夏休みに子どもたちが捕まえたカブトムシを保育園にあげたり、ハロウィンにプレゼントを作ったり、間接的な交流は行っている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	67	33	参加したことはある	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100		連絡帳、電話、メール等で話すようにしている。	送迎時には話をするのは難しい。 対面でなく、文面や声だけでは伝える難しさがある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100		ペアレントトレーニングを行った。	
保	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		契約時に行い、質問があれば都度受け付けている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		ご家族の意向はモニタリング等で聞くとともに子ども本人の意向も聞く機会をできる限り設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	100		内容に質問があれば伝えてもらうようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		モニタリング以外でも相談があればお話を伺い、共感したり助言や支援を行っている。	幅広い悩みや相談に応じるための情報収集に努めスキルアップすること。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100		保護者会については年に１回行っている。	夏まつりはごきょうだいの参加も可能。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		苦情等の受付に対し窓口を設けている。貴重なご意見ご要望として受け止め迅速に対応したい。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100		月に１度程度アフターだよりを発行している。法人全体としてもわんぱく通信を年１回以上は発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100		留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100		子どもたちとは個々に応じて、言葉、文字、サイン、絵等で意思疎通している。	保護者とは昨年9月よりかねてよりご希望のあったLINEによる連絡も行えるようにした。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	71	29	地域住民の行事への招待は行っていないが、イオンによるクリスマスサンタ、ボランティア、介護等体験を受け入れている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100		各種マニュアルを作成し、配布している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100		１ヶ月に１度災害を想定した訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100		年度ごとに個人票を提出してもらい、子どもの状況を記入してもらっている。発作に関しては対応の仕方を詳しく聞き、職員全員で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100		医師の指示書が必要なほどのアレルギーの子はいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100		行われている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	100		マニュアルを配布している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		記入後に全職員が目を通し、会議や打ち合わせ等で原因や改善点などについて話し合う。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		虐待チェックリストを年２回、研修については全職員の受講が義務付けられている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100		支援計画に載せて保護者の了解を得ている。	